

# 新聞記事の構成

年

☆新聞記事から必要な情報を得るために、記事の構成を理解しましょう。

新聞は、社会の出来事を速く、たくさんの人に知らせるための身近な印刷物だよ。新聞の編集の仕方や記事の書き方の持ちようを知り、新聞を読んだり作ったりするときに役立てよう。



## 【見出し】

記事の題名として書かれています。記事の中心を短い言葉で表して、ひと目で分かるように大きく書かれています。大体のめやすとして、十五字以内で書いてあります。

## 【リード文】

記事の内容を短くまとめたもので、見出しの後についています。リード文では、  
・いつ  
・どこで  
・だれが  
・何をした  
ということが短く書かれています。

### 秋の収穫祭に使って 郵便局長 橋小に石臼ときね



贈呈式で野田謙一郎・橋郵便局長からきねを受け取る刈夏輝君ら一武雄市の橋小

## 【写真とその説明】

写真は、記事の内容がより分かりやすく伝わるようにのせられています。写真の近くに書かれている短い説明の文のことを「キャプション」といいます。

## 【本文】

武雄市 九州郵便局 長協会佐賀南部地区会杵島西部会（会長・山口義孝北方郵便局長、13人が1日、武雄市の橋小（古賀一菊校長、109人）に石臼3個ときね10本（計10万円相当）を贈った。収穫祭のもちつきで活用される。

体育館であった贈呈式では、山口会長が「大事に使ってください」と目録を5年の中園優芽花さんに、野田謙一郎・橋郵便局長がきねを刈夏輝君に手渡した。代表して古賀謙也君が「大震災のため被災地では米づくりもできないと聞いています。自然の偉大さをしっかり学び、大切に使用します」とお礼の言葉を述べた。（横尾章）

## 【本文】

出来事のくわしい内容が書いてあります。大事なことは前半に書かれていることが多いです。記事では、出来事に関わった人が話した言葉が引用されることが多いです。会話を取り入れることで、内容がより分かりやすく伝わるように書かれています。

新聞学ほめてNIE

同校は、5年生を中心に1年間を通して米づくりをする総合学習「田んぼの学校」に挑戦。地域の人や保護者も参加し、稲刈り後の12月に収穫祭を実施している。臼ときねは地域から借りていたが、昨年臼が1個使えなくなり、困っていた。それを聞いた同協会がきねを含めて寄贈を申し出た。

佐賀新聞 平成二十三年九月二日付 十四面

新聞記事から必要な情報を得るコツ

- ① 記事全体を見て、見出しやリード文、本文などがどこに書かれているかを考える。
- ② 【見出し】を読んで、記事の内容を大まかにつかむ。
- ③ 【リード文】から【本文】へと、記事の詳しい内容を読んでいく。



結論を先に【見出し】で示し、【リード文】から【本文】へだんだんくわしく書いてあります。